

調査実践報告

スウェーデン及びイタリアに於ける中世小説を中心とした古典籍の書誌調査報告並びに研究発表報告

勝俣 隆（国語教育専攻）

平成 19 年 9 月 13 日（木）から 22 日（土）まで、スウェーデンのストックホルムにある東方博物館と、イタリアのローマにある国立中央図書館で、中世小説を中心とした古典籍の書誌調査を行い、同じくローマの日本文化会館において中世小説『七夕』に関する研究発表を行った。本稿は、その調査実践報告である。

1、 スウェーデンのストックホルムにある東方博物館が所蔵する中世小説の書誌調査報告

ストックホルムにある東方博物館（OSTASIATISKA MUSEET）は、東洋博物館の呼称でも呼ばれることがあるが、東方博物館の図書館秘書である川井千恵氏の使用されている東方博物館の名称に従う。スウェーデンの首都ストックホルムの中心部フェッブスホルメン島（Skeppsholmen）への橋を渡ってすぐ左手に見える小高い丘の上にある。中国・日本・韓国・インドなど東洋の美術品（陶磁器・仏像・書画・掛け軸等）が所蔵展示されている。川井氏に拠れば、図書については、東アジア関係の文献を扱う北欧最大の図書館として知られ、日本関係では、版本や絵入り本、貴重本約五千五百冊（ノルデンフルドコレクション）が東方博物館にある。ニルス・アドルフ・エリック・ノルデンフルド（Nils Adolf Erik Nordenskiöld, 1832 年 11 月 18 日～1901 年 8 月 12 日）は、スウェーデン系フィンランド人で鉱山学者及び探検家として知られ、北欧と東アジアを結ぶ最短航路の開拓を成功させ、日本を 1879 年に訪れた。その時購入した書籍が王立図書館に 1880 年以来置かれていたが、1986 年からは東方図書館で寄託図書として管理することとなったそうである。ある情報では 1975 年にまず、グスターフ 6 世アドルフ図書館に寄託され、その後東方博物館に寄託されたというのがはっきりとした事は分からないそうである。王立図書館の一番重要な役割はスウェーデンで出版された書籍の収集、維持、管理なので、日本の書籍はアジアを専門とする東方博物館に任せようとの事だったのではないかと川井氏は推測されている。東方博物館の図書館は長年閉館となっていたが、2007 年（平成 19 年）9 月に再開した。しかし、川井氏に拠れば、残念なことに、現在、国からの経済的な援助が全く降りない状況で経営困難となり、2008 年（平成 20 年）4 月から再び閉館となりそうだという話である。今後、その膨大な図書の管理については、東方博物館とスウェーデン政府の話し合いで決まるだろうということである。

以下、閲覧調査した書誌の報告をする。丸付き数字の意味は、以下の通りである。①写本・版本の区別。②所蔵者整理書名。③所蔵者整理番号。④外題。⑤内題。⑥柱。⑦刊写年次。⑧保存状態。⑨保存形態。⑩表紙の生地・色・模様。⑪見返し。⑫料紙。⑬装丁。⑭数量。⑮表紙寸法。⑯字高または匡郭。⑰表紙以外の紙数（遊紙の丁数）。⑱本文の行数。1行の字数。⑲絵の状態、数量。⑳その他（刊記・蔵書印・入手の経緯・気づき等）。略とあるのは、不明または該当項目のないものである。なお、国文学研究資料館では、挿絵の数を、絵の内容に関わらず半丁分を一面としているが、本稿では絵の内容を重視し、絵が見開き両面に渡る場合、二面ではなく、一図と数えているので、ご了解いただきたい。

1、秋月物語 ①刊本。②秋月物語。③BIBLIOTHECA REGIA HOLMIENSIS NORDENSKJOLDS SAML No.953、vol.1-3, ROSNY 154。④「秋月物語 上（中・下）」題箋、左肩・刷り・原装・双郭。なお、上冊題箋の上下に「No.953、1612」とペン書き。⑤秋月物語 上（中・下）。⑥秋月 上（中・下）。⑦江戸前期。⑧良好。但し、上・中・下冊共に虫食いが少々有り、上冊には墨の汚れも有る。⑨ボール紙の箱と洋装の帙で二重に保護。⑩原装。濃紺・さや形模様。⑪原装。本文共紙。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭上中下三冊。⑮26.3×18.5 糎。⑯匡郭（双郭）。20.3×16.2 糎。⑰全 96 丁（上 33 丁・中 31 丁・下 32 丁）。遊紙なし。⑱12 行。1 行 22 字ほど。⑲墨印、全十六図。上冊第一図（三ウ）・第二図（十一オ）・第三図（十四ウ）・第四図（十八オ）・第五図（二十四ウ）・第六図（二十八ウ）、中冊第一図（六ウ）・第二図（十三オ）・第三図（十七オ）・第四図（二十四オ）・第五図（三十一オ）、下冊第一図（四ウ）・第二図（十一ウ）・第三図（十七オ）・第四図（二十八オ）・第五図（三十一ウ）。⑳刊記なし。蔵書印「北條蔵書」（3.2×3.3 糎、朱、方形。）室町時代物語類現存本簡明目録に拠れば、刊本で無刊記の「秋月物語」は、他に見当たらない。

2、衣更着物語 ①刊本。②衣更着物語。③BIBLIOTHECA REGIA HOLMIENSIS NORDENSKJOLDS SAML No.575、vol. 1/1, ROSNY 187。④「衣更着物語 1693」（直接墨書、後装・左肩）。⑤なし。⑥衣更着物語 上（下）。⑦元禄六年（1693）。⑧良好。⑨洋書用ハードカバーの帙入り。⑩後装。和紙紋り模様。白地に紺。⑪原装。本文共紙。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭上下二冊。⑮26.2×18.5 糎。⑯匡郭 20.1×16.4 糎。⑰全 55 丁（上冊 27 丁、下冊 27 丁、遊紙、上冊の前後に半丁分ずつ有り。）⑱10 行。歌は二行書きや散らし書き等様々有り。⑲墨印、全十九図。上冊第一図（三ウ・四オ）・第二図（五ウ・六オ）・第三図（七ウ・八オ）・第四図（九ウ・十オ）・第五図（十一ウ・十二オ）・第六図（十三ウ・十四オ）・第七図（十五ウ・十六オ）・第八図（十七ウ・十八オ）・第九図（十六ウ・十七オ）・第十図（二十一ウ・二十二オ）・第十一図（二十三ウ・二十四オ）・第十二図（二十五ウ・二十六オ）、下冊第一図（二ウのみ。半丁分）・第二図（三ウ・四オ）・第三図（七ウ・八オ）・第四図（十二ウ・十三オ）・第五図（十七ウ・十八オ）・第六図（二十一ウ・二十二オ）・第七図（二十五ウ・二十六オ）。いずれも四

季の動植物等の景物を描いた扇と人物が霞で一体のものとして描かれている。⑳刊記。下冊末尾。「元禄六年癸酉孟春 永田調兵衛開板」本書と同板は、国会図書館や京大にある。

3、貴船の本地 ①刊本。②貴船本地③BIBLIOTHECA REGIA HOLMIENSIS NORDENSKJOLDS SAML No.956、vol.1-3, ROSNY 152。④上冊は題箋の上五分の三がなし。中冊は題箋なし。下冊のみ「木船乃本地 下」と完備。下冊の題箋、刷り・原装・左肩・単郭。⑤きふねの本地 上（中・下）。⑥きふね。⑦承応明暦ごろ。⑧良好。但し、中冊・下冊に虫食い有り。⑨ボール紙の箱と帙の二重包装。⑩原装。浅葱色。横刷毛目唐草模様。⑪原装・本文共紙。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭上中下三冊。⑮27.0×18.8 糎。⑯匡郭（単郭）。21.1×15.5 糎。⑰全 49 丁半（上冊 14 丁。中冊 16 丁。下冊 19 丁半）。遊紙なし。⑱10 行。1 行 18 字ほど。歌は 1 首 2 行書き。⑲墨印。全九図。上冊第一図（三ウ・四オ）・第二図（八ウ）・第三図（十一ウ・十二オ）、中冊第一図（一ウ・二オ）・第二図（四ウ）・第三図（十四ウ・十五オ）、下冊第一図（八ウ・九オ）・第二図（十四ウ）・第三図（十八ウ・十九オ）。⑳刊記なし。蔵書印「角田家蔵」（1.7×1.7 糎。四角の朱印。）「福田文庫」（双郭。外径 3.3×1.5 糎。内径 2.8×1.3 糎。長方形朱印。）上冊表紙に「No. 956」と墨書。「1327」とペン書き。下巻は裏表紙が余計に一枚付いている。二十丁目に当たる丁が裏表紙と一体になっているためだろう。本書は承応明暦ごろ刊行の絵入大本で、丹緑本と無彩色本があるが、本書は無彩色本の系統に属する。同板は、天理図書館・東北大学附属図書館・刈谷図書館にある。

4、猿源氏草紙 ①刊本。②猿源氏物語。③BIBLIOTHECA REGIA HOLMIENSIS NORDENSKJOLDS SAML No.1004、vol. 1/1 ROSNY 210。④「さるげんじ」。題箋、原装・刷り・左肩・双郭。1658〈明暦四年の意〉とペン書き。上下と墨書。⑤さるげんじ 上（下）。⑥猿源 上（下）丁数。⑦明暦四年（1658 年）。⑧良好。但し、虫食い有り。⑨ボール紙の帙入り。⑩原装。濃紺。牡丹唐草に横刷毛目模様。⑪原装。本文共紙。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭上下二冊合本。⑮25.8×18.2 糎。⑯匡郭（単郭）21.6×16.3 糎。⑰全 22 丁（上冊 11 丁・下冊 11 丁。）遊紙なし。⑱14 行、1 行 23 字ほど。⑲丹緑本。全六図。上冊第一図（二ウ）・第二図（六オ）・第三図（十オ）、下冊第一図（二ウ）・第二図（六オ）・第三図（十オ）。なお、裏見返しに、この挿絵について、次のような書き入れがある。「猿源氏半紙本にも有し中繪菱川ト見ヘル」。菱川師宣の絵と推測したものである。⑳刊記、「明暦四年戊九月吉日 山田市良兵衛開板」。蔵書印「角田家蔵」（1.7×1.7 糎。四角の朱印。）「福田文庫」（双郭。外径 3.3×1.5 糎。内径 2.8×1.3 糎。長方形朱印。）本書と同板は東京大学霞亭文庫にある。

5、 仏鬼軍 ①刊本。②仏鬼軍。③BIBLIOTHECA REGIA HOLMIENSIS NORDENSKJOLDS SAML No.429、vol. 1/1 ROSNY 32。④「佛鬼軍 完」題箋、刷り・原装・左肩・双郭。1823 とペン書きし、3 を鉛筆で 4 に修正。⑤佛鬼軍（初丁、中央に墨書）。⑥軍ノ 丁数。⑦文政六年癸未八月（1824 年）。⑧良好・⑨帙等なし。⑩原装。浅葱色。無地。⑪原装。「一休和尚自画賛 佛鬼軍 江戸本

石町十軒店書林萬笈堂英平吉蔵梓」と有り。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭一冊。⑮26.0×18.2 糎。⑯匡郭（単郭）22.3×15.4 糎。⑰全 28 丁。遊紙なし。⑱ 8 行。1 行 16 字ほど。⑲墨印。全十八図。第一図（一ウ・二オ）・第二図（二ウ・三オ）・第三図（三ウ・四オ）・第四図（四ウ）・第五図（七ウ・八オ）・第六図（八ウ）・第七図（十一ウ・十二オ）・第八図（十二ウ）・第九図（十五ウ・十六オ）・第十図（十六ウ・十七オ）・第十一図（十七ウ）・第十二図（二十一ウ）・第十三図（二十六オ）・第十四図（二十六ウ・二十七オ）・第十五図（二十七ウ・二十八オ）。⑳識語「文政六年癸未八月。筠庭節信識」。医薬品登竜丸の宣伝有り。刊記「東叡山御用 御書物所 江戸下谷御成道。青雲堂英文蔵製。」。

6、文正草子 ①刊本。②文章草紙（文正の草子）。③OSTASIATISK MUSEET 954/65。④題箋は剥離して痕跡のみ残る。⑤ぶんしやうのさうし 下。⑥ふんしやう 下 丁数（二十一～四十三終）。⑦江戸前期。⑧やや不良。破損・汚れ・虫食い有り。本文三十三丁裏は、字も消え、途中に欠損がある。⑨箱・帙等なし。⑩原装。浅葱色。無地。⑪原装。本文共紙。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭現存下冊のみ一冊存（本来上下二冊）。⑮26.3×18.2 糎。⑯匡郭（単郭）22.5×16.9 糎。⑰全 43 丁。遊紙なし。⑱12 行。1 行は 22 字から 25 字ほど。⑲墨印。全六図。下冊第一図（二十三ウ）・第二図（二十七オ）・第三図（三十ウ）・第四図（三十四オ）・第五図（三十九オ）・第六図（四十二オ）。⑳刊記・書き入れ等なし。蔵書印は「OSTASIATISK MUSEET」の楕円印（縦 1.2×横 2.3 糎、橙色印）のみ。蔵書印の中の 954/65 の数字は青ペン書き。二十八丁と二十九丁の間、三十六丁と三十七丁の間に茶色に変色した植物の茎が挟まれている。本文三十四丁と三十五丁の間には、「盡品筆鋒六卷補遺目録」の 1 ページが挟まっている。紙片が二枚あり、1 枚には、「Bunsho no Soshi 十五」と鉛筆で書かれ、もう一枚には、「〈表〉Bunsho Soshi 文章草紙 1vol.954, 〈裏〉954」とある。本書は蔵書印から、王立図書館のものではなく、東方は博物館独自の収集品と分かる。

7、文正草子 ①刊本。②ぶんしやうのさうし。③BIBLIOTHECA REGIA HOLMIENSIS NORDENSKJOLDS SAML No.588、vol. 1-2 ROSNY 150。④「新板 ふんしやう 上（下）」。題箋、原装・刷り・左肩・双郭の飾り枠題箋。ペン書きで、1783（承応二年の意）とあり。⑤ぶんしやうのさうし 上（下）。⑥ぶんしやう 上（下）丁数。⑦承応二年（1783 年）。⑧普通。虫食い有り。⑨厚紙の箱と帙で二重の保護。⑩原装。茄子紺。無地。古色をなす。墨のいたずら書き有り。⑪原装。本文共紙。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭上下二冊。⑮25.3×18.0 糎。⑯匡郭（単郭）22.0×16.0 糎。⑰全 43 丁半（上冊 19 丁半、下冊 23 丁）。遊紙なし。⑱12 行。1 行は 20 字ほど。歌は 2 行書き。⑲墨印。全十二図。上冊第一図（二オ）・第二図（六ウ）・第三図（十ウ）・第四図（十二ウ）・第五図（十六オ）・第六図（十九オ）、下冊第七図（二十三ウ）・第八図（二十七オ）・第九図（三十ウ）・第十図（三十四オ）・第十一図（三十九オ）・第十二図（四十二オ）。丁数は通し番号になっている。⑳刊記、「承應二年三月吉日」（下冊末尾）。表紙にペンで「No. 588、2、1」とある。上冊末尾（二十オ）の左下に 1.0×0.5 糎の長方形の小さい

蔵書印らしきものが存在するが、写りが不鮮明で、上の字が辛うじて「徳」ではないかと思われるが、断定できない。承応二年版は、旧赤木文庫・慶応義塾図書館・大阪府立中之島図書館にある。なお、本書下冊の三ウ・四オの間に次の英文の紙片(5×2 1 糎)が挟まれている。「retain a significant characteristic of the picture scroll book. The text and abundant illustrations overlap intermingle from recto to verso keeping in mind that Chinese and Japanese books are read in the opposite direction of Western books , that in from the word in baskets may not be needs.」この紙片の裏には「X V I I I , h」とある。本文と挿絵、書物を読む方向について簡単な記述があるが、どういう由来のものかは不明。

8、文正草子 ①刊本。②文しやうさうし。題箋のコピーの貼り付け。③BIBLIOTHECA REGIA HOLMIENSIS NORDENSKJOLDS SAML No.980、vol. 1-2 ROSNY 210。④「文しやうさうし」題箋、原装・刷り・左肩・双郭。17.5×3.5 糎。題箋の下部に「角田家蔵」(1.7×1.7 糎)の四角の朱印有り。その朱印の上には、ペン書きで1664(寛文四年の意)とある。⑤ふんしやうのさうし 上(下)。⑥ふんしやう 上(下)。⑦寛文四年(1664年)。⑧良好。但し、上冊の裏表紙に虫食い有り。⑨厚紙の帙入り。⑩原装。濃紺。さや型。⑪原装。本文共紙。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭上下二冊。⑮26.7×18.7 糎。⑯匡郭(単郭)。21.1×16.7 糎。⑰全54丁(上冊24丁。下冊30丁。)遊紙なし。⑱11行。1行21字ほど。⑲全十二図。上冊第一図(二ウ)・第二図(七ウ)・第三図(十二ウ)・第四図(十六オ)・第五図(十九ウ)・第六図(二四オ)、下冊第一図(四オ)・第二図(八ウ)・第三図(十三ウ)・第四図(十八オ)・第五図(二十四ウ)・第六図(二十八ウ)。⑳刊記、「寛文四年甲辰十二月吉日 長尾平兵衛」。本書と同じ寛文四年版は、慶應義塾大学図書館・東京大学総合図書館・学習院大学文学部国文学研究室・香川大学神原文庫・都立中央図書館・蓬左文庫にある。下冊の裏見返しに「文久二年丑年十月廿八日拝見了」とあり。蔵書印「角田家蔵」(1.7×1.7 糎。四角の朱印。)
「福田文庫」(双郭。外径3.3×1.5 糎。内径2.8×1.3 糎。長方形朱印。)

9、一本菊 ①刊本。②ひともとぎく。③BIBLIOTHECA REGIA HOLMIENSIS NORDENSKJOLDS SAML No.1009、vol. 1/1 ROSNY 151。④「No.1009 ひともとぎく v1, 1599」題箋、後装・墨書・肩・単郭。⑤「一もとぎく 上 一本きく」「一もとぎく 中(下)」。⑥一本 上(中・下)丁数。⑦寛文11年以降。⑧良好。但し、補修の痕有り。また、虫損あり。⑨厚いボール紙の帙入り。⑩原装。濃紺。布目地。⑪原装。本文共紙。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭上中下三冊の合一冊。⑮26.5×18.5 糎。⑯匡郭(単郭)22.0×16.7 糎。⑰全35丁(上冊1~11丁・中冊12~23丁・下冊24~35終)。遊紙なし。⑱14行。1行26字ほど。⑲全十五図。上冊第一図(二オ)・第二図(四オ)・第三図(六オ)・第四図(八オ)・第五図(十オ)、中冊第六図(十三オ)・第七図(十五オ)・第八図(十八オ)・第九図(二十オ)・第十図(二十二オ)・第十一図(二十五オ)・第十二図(二十七オ)・第十三図(二十九オ)・第十四図(三十一ウ・三十二オ)・第十五図(三十四オ)。なお、本書の挿絵は、例えば、第四図で、燭台に「あんとん」と書き入れたり、

衝立に七宝紫ぎ文様を墨で描いたりといった、書き込みが見られる点に特徴がある。⑩刊記、「松會開板」（下冊末尾、双郭）。蔵書印「角田家蔵」（1.7×1.7 糎。四角の朱印。）「福田文庫」（双郭。外径 3.3×1.5 糎。内径 2.8×1.3 糎。長方形朱印。）。袋綴じの中央が切れている箇所がある。本書は寛文十一年刊の松會開板から刊行年を削ったもので、同板は水戸彰考館や東北大附属図書館狩野文庫にある。

10、若草物語 ①刊本。②若草物語。③OSTASIATISK MUSEET 923/65（中冊）。922/65（下冊）。④剥離して無し。痕跡のみ左肩に残る。⑤わか草ものかたり 中（下） 上冊はなし。⑥わか 中（下）。⑦天和三年（1683）。⑧不良。破損・疲弊・汚損・虫損有り。⑨箱・帙共になし。⑩原装。濃紺。さや型に唐草模様。表紙の状態が悪く、上紙が剥がれそう。⑪原装。本文共紙。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭現存は中・下の二冊。上冊は無し。⑮27.5×19.0 糎。⑯匡郭（単郭）22.0×16.0 糎。⑰残存全 26 丁（中冊 12 丁半・下冊 13 丁半）。遊紙なし。⑱14 行。1 行は 20 字ほど。⑲丹緑本。残存全十二図（中冊第一図（二ウ・三オ）・第二図（五オ）・第三図（七オ）・第四図（八オ）・第五図（十オ）・第六図（十二オ）、下冊第一図（二ウ・三オ）・第二図（五オ）・第三図（七オ）・第四図（八オ）・第五図（十オ）・第六図（十二オ）。⑳刊記、「天和三癸亥二月吉日 江戸大傳馬町三丁目 うろこかたや開板」。同板は、慶應義塾大学図書館・筑波大学図書館・京都大学国文学研究室・大東急記念文庫・国会図書館・国立公文書館にある。表紙の裏や見返しに墨でいたずら書きがあり、消してある。朱の楕円形の蔵書印「OSTASIATISK MUSEET 923/65」（中冊）。OSTASIATISK MUSEET 922/65（下冊）がある。この場合の数字はペン書きである。

以上のように、東方博物館の所蔵する中世小説は、刊本ばかりで、特に珍しいものはないが、比較的所蔵する他の機関が少ないものが多い点に特色がある。なお、他に中世小説ではないが、『住吉物語』（Rosny 141/210, Edgren 154.）と『をみなへし』（Rosny 857/185, Edgren 180.）の手稿本の存在が知られている。今回は、時間の都合で閲覧が出来なかったが、またの機会を期したい。

2、ローマ国立中央図書館の所蔵する古典籍の調査報告

ローマ国立中央図書館（BIBLIOTECA NAZIONALE CENTRALE VITTORIO EMANUELE II）には、多くの日本の古典籍が所蔵されている。既に図書館情報大学の藤野幸雄氏が編纂された『江戸明治期刊行日本語図書目録』（CATALOGO DEI LIBRI GIAPPONESI DEI PERIODI EDO E MEIJI、1995 年）があり、網羅されている（注 1）。ただ、残念ながら、いわゆる中世小説そのものは見当たらないので、同館の図書館司書のマリーナ・バッタグリーニ（Marina BATTAGLINI）氏の許可を得て、気になった幾つかの古典籍の書誌調査を行ったので、報告したい。なお、中世小説に関しては、バチカン図書館に『文正草子』、ジェノバのキヨソネ美術館に『猿の草子』が存在している。しかしながら、バチ

カン図書館は昨年5月から当分の間閉館になってしまい、さらに、キヨソネ美術館には、時間の都合で足を運ぶことが出来なかった。またの機会を期したい。

1 朝鮮物語 ①刊本。②朝鮮物語。③73C243。④剥離して無し。痕跡のみ左肩に残る。⑤朝鮮物語。⑥朝鮮物語。⑦嘉永二年(1849)。⑧良。⑨箱・帙共になし。⑩後装。辞書様に装丁。⑪原装。本文共紙。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭上中下全三冊を一冊に洋装で合本。⑮26.5×19.0 糎。⑯匡郭(単郭) 18.1×13.0 糎。⑰全 107 丁(上冊 37+4 丁・中冊 35 丁・下冊 30+1 丁)。遊紙なし。⑱本文 10 行。序文 6 行。⑲全二図(上冊第一図(十三ウ・14オ)、中冊第二図(六ウ・七オ)・下冊挿絵なし。⑳刊記、「糸魚川藩 佐治信蔵版」嘉永二年己酉五月刻成 東都書林本町三丁目 和泉屋善兵衛」、表見返し「大河内秀元陣中日記 朝鮮物語 全部三冊 東都書林 誠格堂梓」、序文「嘉永二年己酉夏閏四月弘庵陳人大雅識。」

2、唐物語①刊本。②唐物語。Kara monogatari ③73C113-1。④「からものかたり」題箋、原装・刷り・左肩・単郭。⑤からものかたり。⑥不明。⑦文化六年(1849)。⑧並。虫食い有り。6冊目は水にぬれ汚損。⑨箱・帙共になし。⑩後装。洋装、ハードカバー。⑪原装。本文共紙。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭全六冊。⑮26.4×18.5 糎。⑯匡郭(単郭) 18.0×15.0 糎。⑰全 66 丁(提要 8 丁・本文 52 丁・広告 6 丁)。遊紙なし。⑱本文 10 行。序文 10 行。⑲無し。⑳刊記、「日本橋南通四丁目 須原屋佐助」、序文「唐物語提要文化六年二月清水濱臣識。」、広告「金花堂蔵板目録」、蔵書印「BIBLIOTECA NAZ ROMA VITTORIO EMANUELLE II」の楕円印(1×3 糎)。

3、うつほ物語①刊本。②うつほ物語。③73C254。④なし。⑤なし。⑥藤上一(藤中 二、藤下 三)。⑦文化3年(1806)。⑧良。⑨箱・帙共になし。⑩後装。ハードカバー。⑪後装。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭全六冊。⑮25.6×18.5 糎。(24.8×17.5 糎)⑯匡郭(単郭) 20.2×15.7 糎。⑰全 1435 丁(第一冊 藤上一 88 丁・藤中二 51 丁・藤下三 56 丁)。第二冊 楼上四 83 丁・楼下五 72 丁・菊六 65 丁、第三冊 藤七 54 丁・露八 31 丁・忠九 34 丁・吹上十 24 丁・吹下十一 47 丁、第四冊 斎十二 48 丁・嵯十三 105 丁・梅十四 28 丁、第五冊 初十五 94 丁・俊十六 80 丁・阿十七 28 丁、第六冊 国上十八 80 丁・国中十九 83 丁・国下二十 58 丁。遊紙なし。⑱本文 11 行。⑲墨印。全百二十一図。(第一冊十七図、第二冊二十図、第三冊二十二図、第四冊十八図、第五冊二十三図、第六冊二十一図) ⑳刊記、「延宝五辛巳年初春吉辰開板 補刻 文化三年丙寅春三月吉旦。書林 大坂本町四丁目 葛城宣英堂 奈良屋長兵衛板」、蔵書印「BIBLIOTECA NAZ ROMA VITTORIO EMANUELLE II」の楕円印(1×3 糎)。

4、釈迦御一代記圖會 ①刊本。②釈迦御一代記圖會。③73C135。④「釈迦御一代記圖會」題箋、原装・刷り・左肩・双郭。⑤釈迦御一代圖會。⑥釈迦圖會 丁数。⑦弘化二年(1845)。⑧良。⑨布張りの帙入。⑩原装。朱、瑞雲模様。⑪原装。本文共紙。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭全六冊。⑮25.5×18.1 糎。⑯匡郭(単郭) 20.2×15.5 糎。⑰全 204 丁(第一冊 34 丁・第二冊 38 丁、第三冊 39 丁半、第四冊 35

丁、第五冊 30 丁半、第六冊 27 丁。遊紙なし。⑮本文 12 行。序文 5 行。⑯墨印。全三十六図。(第一冊六図、第二冊七図、第三冊五図、第四冊八図、第五冊五図、第六冊五図) ⑰刊記、「弘化二年乙巳四月 発兌書林 京都堀川通二條下ル越後屋治兵衛 江戸日本橋通二丁目 山城屋佐兵衛 大阪心斎橋通博労町角 河内屋茂兵衛」見返し「好花堂野亭考撰 東都 稲田玉山堂 浪華 岡田群玉堂 合梓」、序文「天保十年冬十一月 世尊一代圖會序 紫野黄梅院前大徳 大徳四百廿五世大綱撰」、蔵書印「BIBLIOTECA ROMA EMANUELLE」の王冠型印。

5、竹取物語 ①刊本。②竹取物語。③73C107。④「絵入 竹とり物語」。題箋、原装、刷り、左肩、単郭。⑤繪入 竹取物語。浪花 やなきいらする開梓。⑥たけ上(下) 丁数。⑦天明四年(1784)。⑧良。⑨箱・帙共になし。⑩原装。青、網目。⑪原装。本文共紙。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭上下二冊の合本一冊。⑮25.6×18.0 糎。⑯匡郭(単郭) 20.2×14.6 糎。⑰全 42 丁(上冊 22 丁・下冊 20 丁)。遊紙なし。⑱本文 11 行。序文 10 行。歌 2 行。⑲全十二図(上冊六図・下冊六図)。⑳刊記、「藤代多左衛門板」、「浪華 柳原喜兵衛 天明四年辰夏四月 江戸日本橋三丁目 前川六左衛門 京都六角通御幸町西へ入 小川多左衛門 大阪南久太郎町心斎橋筋。6 の竹取物語の後刷りであろう。

6、竹取物語 ①刊本。②たけと里物語。③73C252。④剥離してなし。痕跡のみ左肩に残る。⑤たけとり物語。⑥たけ上(下) 丁数。⑦天明四年(1784) 以前。⑧良。⑨箱・帙共になし。⑩後装。ベージュ、無地。⑪後装。無地。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭上下二冊の合本一冊。⑮26.2×18.0 糎。⑯匡郭(単郭) 20.2×14.6 糎。⑰全 47 丁(上冊 22 丁・下冊 25 丁)。遊紙なし。ペンで洋書の向きにページ番号は振ってある。⑱本文 11 行。歌 2 行。⑲全十二図(上冊六図・下冊六図)。⑳刊記、「藤代多左衛門板」、「稿本ニ竹とりの翁語とあり」等の書き入れ多し。

7、今昔物語 ①刊本。②今昔物語。③73B47 (1~20)。④「和朝 今昔物語」題箋、原装、刷り、左肩、双郭。⑤今昔物語。⑥今昔物語 和朝。1 丁目・11 丁目に「柳枝軒蔵版」とある。⑦享保 18 年(1733)。⑧良。⑨帙入り。⑩原装。濃紺。格子型押し。⑪「宇治大納言隆國卿撰 井澤先生考訂纂註 今昔物語」。⑫楮。⑬袋綴じ。⑭全二十冊。⑮22.2×15.5 糎。⑯匡郭(単郭) 18.8×13.2 糎。⑰全 549 丁(巻一 32 丁・巻二 40 丁半・巻三 19 丁半・巻四 20 丁半・巻五 33 丁・巻六 35 丁・巻七 36 丁・巻八 16 丁半・巻九 24 丁・巻十 27 丁・巻十一 28 丁・巻十二 19 丁・巻十三 25 丁半・巻十四 29 丁半・巻十五 28 丁・巻十六 17 丁半・巻十七 16 丁半・巻十八 33 丁半・巻十九 27 丁半・巻二十 35 丁。他に広告 5 丁。遊紙なし。⑱本文 10 行。⑲墨印。全七十九図。(巻一、四図、巻二、六図、巻三、三図、巻四、三図、巻五、六図、巻六、六図、巻七、六図、巻八、三図、巻九、四図、巻十、三図、巻十一、四図、巻十二、四図、巻十三、三図、巻十四、四図、巻十五、四図、巻十六、二図、巻十七、二図、巻十八、五図、巻十九、四図、巻二十、四図。) ⑳刊記、「享保十八年巳孟春吉日版行 京都 六角通御幸町 茨城多左衛門 江府 日本橋南二丁目 小川彦九郎」他に須原屋茂兵衛多数の書肆が並ぶ。序文「享保五年五月朔日 肥後隈本 井澤節長秀」他に、凡例・系図・目録

あり。

他に、次のものを閲覧したが、紙幅の関係で書名と簡単な書誌のみ載せる。

8、曾我物語①刊本③73A615⑦貞享五年（1688）⑭1冊⑮17.9×11.5 糎⑰22 丁⑱江戸糸屋庄兵衛。9、繪本曾我物語①刊本③73B227,1-2⑦天保十年（1839）⑭2冊⑮22.2×15.6 糎⑰130 丁⑱五十三図。⑳浪速書林 河内屋茂樹 法橋西村中和画。10、箱根靈驗寢仇討①刊本③73A702-3⑦不明⑭2冊⑮17.8×11.7 糎⑰47 丁⑱十六図。⑳東武 鈍亭魯文著。11、箱根靈驗寢仇討①刊本③73B427⑦享和元年（1801）⑭1冊⑮21.9×15.3 糎⑰106 丁⑱挿絵なし。⑳大阪 綿屋喜兵衛板。司馬芝瘦作。12、頭書訓読源氏百人一首湖月抄①刊本③73C120⑦天保十二年（1840）⑭1冊⑮26.2×18.5 糎⑰75 丁⑱百図。⑳江戸金花堂。13、平家物語①刊本③73D7、1-4⑦江戸前期⑭洋装4冊（12巻+灌頂巻）⑮28.1×20.8 糎⑰888 丁⑱無。⑳下村時房刊。14、牽牛花實記（朝顔物語）①刊本③上巻 73A651、下巻 73A654⑦江戸前期⑭2冊⑮17.6×11.5 糎⑰上下 47 丁⑱13 図。⑳柳々風土序。他にも幾つか閲覧したが、省略する。

3. ローマ日本文化会館における研究発表について

2007年9月19日から22日まで、イタリアの首都ローマの日本文化会館(Instituto Giapponese di Cultura)において、第18回日本資料専門家欧州協会年次総会(The 18th EAJRS (European Association of Japanese Resource Specialists) Annual Congerence, Rome, September, 19-22, 2007)が開催され、19日(水)に、「中世小説『七夕』の本文と挿絵について」という題で研究発表を行った。以下に英文要旨を記す。また、欧米アジアの様々な国の方から、日本資料の所在や調査状況が報告され、大変勉強になった。会の詳細はニュースレターにある(注2)。

Summary On the Text and Illustrations of 'Tanabata' a Medieval Tale
Takashi Katsumata (Faculty of Education, Nagasaki University)

There are two styles of the story "Tanabata" a Medieval Tale. One is the type in which the youngest daughter of a rich person marries a young handsome man who emerges from a snake. The other is the type in which the younger daughter of a noble person marries a young handsome man who comes from Heaven. The hero of both is called 'Amewakamiko'. It is clear that these two types are closely connected. I would like to discuss the former version, which is about the origin of the legend of Tanabata. It is constructed from several motifs: a marriage between human beings and a snake; the legend of Amewakamiko; taboo and violence; the visit to Heaven; propounding tough questions to the youngest daughter, and so on. The text of this type has two styles. One is called "Ema, i-kei". This type is a simple folk tale, expressed as a short story, but with beautiful illustrations. The other type is called "

Sassi-kei ". This has a long complex story and simple illustrations. On first impression, it is natural to consider that Emaki-kei is older than Sassi-kei, because the illustrations of Emaki-kei are beautiful and detailed. Therefore many researchers have judged that Sassi-kei evolved from Emaki-kei. However, I conclude that this is an erroneous judgment. Sassi-kei has a long and minute text, and contains episodes which are lost in Emaki-kei. For example, in the scene in which a washerwoman receives a letter from a snake, the illustration in Emaki-kei shows the figure of a lady between the washerwoman and the rich person. However, there is no allusion to such a mediating lady in the text of Emaki-kei. Furthermore, the text of Sassi-kei has a phrase describing a mediating lady, but it has no figure of such a lady in the illustration. There are many similar examples. I consider that Emaki-kei is not the original form. I would like to conjecture that there was an older form which consisted of minute illustrations and detailed text. Soon the original form separated into two styles. One is the old type of Emaki-kei, and the other is the old type of Sassi-kei. Both changed separately and originally. Emaki-kei could have long-sized illustrations owing to its special quality, so that it has minute illustrations similar to the original form. Furthermore, Emaki-kei does not need detailed text, because the illustrations, rather than the text, explain the scene. Meanwhile, Sassi-kei could not have a long-sized illustrations owing to the limitations imposed by the width of the book, therefore it omitted the figures of people and numbers of things and so on from the original illustrations. On the other hand, Sassi-kei did not need to cut textual details, therefore it has maintained a detailed text. In conclusion it only remains to be said that there are many rare and excellent books of Japanese Medieval Tales in Europe, therefore I believe we should maintain and use them practically and cooperatively as the property of all mankind.

注

(1) 『ローマ国立中央図書館所蔵 江戸明治期刊行日本語図書目録』(藤野幸雄編、ローマ、1995年)これは、明治後期から大正期にイタリア人の日本研究者によって収集され、寄贈されたものという。地誌・演劇・文学関係が多い。

(2) EAJRS NEWSLETTER 15(Leiden Autumn 2007)。

(付記、ストックホルムの東方博物館の川井千恵氏、ローマ国立中央図書館のマリーナ・バッタグリーニ(Marina BATTAGLINI)氏に大変お世話になった。お二人に厚く御礼申し上げる。発表要旨の英文は教育学部のブラウン先生に添削頂いた。謹んで謝意を申し上げます。また、同行し、調査助手を務めてくれた妻眞紀にも感謝したい。)